

資料 5

神奈川県温泉地学研究所

(1) 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査

精度の高い震源分布や強震動予測に必要な地震波速度と非弾性常数の三次元的な分布を明らかにするとともに、プレート境界面の形状やプレート内における弱面の存在等を把握する。そのために、首都圏に新たに約 400 箇所地震観測点を機動的に設置し、自然地震の稠密観測を行う。以下の 3 つの課題を 5 カ年にわたって実施する。

1-1 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査 (地震研究所)

1-2 伊豆衝突帯の地震活動調査によるプレート構造調査研究 (温泉地学研究所)

1-3 統合処理によるプレート構造調査研究及びデータ保管 (防災科学技術研究所)

○5 カ年の全体計画

平成 19 年度：伊豆衝突帯周辺及び首都圏西部 (神奈川県) に観測点を 1 箇所設置し、沈み込む前のプレートの構造もしくは首都圏西部の地盤構造の調査に資するデータを得る。

平成 20 年度：5 観測点を伊豆衝突帯周辺及び首都圏西部 (神奈川県) に設置する。

平成 21 年度：4 観測点を伊豆衝突帯周辺及び首都圏西部 (神奈川県) に設置する。

平成 22 年度：高精度震源分布、応力分布、速度構造や S 波スプリッティングなどの解析結果に基づき伊豆衝突帯周辺域の構造モデルを構築する。

平成 23 年度：高精度震源分布、応力分布、速度構造や S 波スプリッティングに基づき伊豆衝突帯周辺域の構造モデルを構築する。

○平成 19 年度の実施計画・進捗状況

地震研究所と調整した結果、横浜市立平戸小学校の 1 カ所の設置を担当する (場所は図参照)。

現在、横浜市安全管理局の協力を得て横浜市教育委員会施設管理課から、平戸小学校にその旨を伝えてある。9～10 月には現地へ赴き学校関係者との設置場所の確定をおこなう予定である。

設置時期は、機器・業者選定の手順を踏んだ後、翌年 1～2 月頃を予定している。

